

平成 16 年 8 月 30 日

シナイモツゴ郷の会

事務局 鹿島台町公民館(0229-56-2510)



## 9月NPO法人認証・登記、11月生態系保全シンポジウム開催

郷の会は結成以来シナイモツゴの人工繁殖・生息池の拡大やブラックバス駆除など水域の生態系保全と復元に努めてまいりました。この中で私たちはブラックバスなどの侵入により水域の生態系は崩壊状態にあることを実感し、これらの保全と復元は行政と協働で取り組むべき緊急課題と考えるようになりました。これを受けて、郷の会は、今後、さらに先駆的な活動を広範囲に展開するためNPO法人として再出発することになりました。3月にNPO法人設立総会が開催され、満場一致で法人化が可決され、6月上旬に法人承認申請を宮城県に提出し受理されました。9月、正式承認、登記を経て法人化される予定です。

会員の皆様は新たな定款に沿って決議に参加する正会員とサポーター的な里親の会(イベントへの参加可能、シナイモツゴの里親になることができる)のいずれかの会員を選択することになっています。手続きを終えていない方は事務局に連絡して至急済ませてください。

11月には法人設立を記念してシナイモツゴの保護を

連携して推進している鹿島台町と共催でシンポジウムを開催することになりました。シンポジウムには著名な淡水魚研究者3名と全国から注目されている宮城のブラックバス対策研究者6名の方々に講演していただきます。夜には気軽な情報交換会も開催予定です。全国から多くの方が参加されると思われますので会員のご協力宜しくお願いします。

さらに9月5日には恒例の池干しバス駆除作戦を実施予定です。池干しによりブラックバスを完全駆除し、ここへシナイモツゴなど在来種を放流して以前の豊かなため池を復元することを目的にしています。郷の会は池干し・バス駆除に関してすでに独自の方法を確立しており、その後のシナイモツゴの放流に関しても卵の放流など新たな方法を提案しています。これらの方式は全国的に注目されており、町、内外から大勢の参加が予想されます。地曳網など楽しい企画も用意されていますので、是非、ご参加ください。

### 新年度の活動(4~8月)

- 4~6月 (毎週日・水曜日)バスバスターズとして伊豆沼バス駆除に参加
- 4月29日 鹿島台町内ため池の生物調査(トラップ・三角網)
- 5月4日 鹿島台町内A氏個人所有ため池へシナイモツゴ初の放流、約150尾
- 5月15日 みやぎNPO夢ファンド二次審査会、堂々2位で助成金獲得・・・発表大浦
- 5月~ シンポジウム実行委員会発足し協議と準備を開始(11月20日開催決定)
- 5月16日 神奈川県相模原市立鹿島台小学校へシナイモツゴ115尾寄贈
- 5月上旬~ 鹿島台小学校ビオトープへシナイモツゴ卵を放流、飼育管理指導と支援・・・主担当渡辺
- 5月24日 一の蔵の協力で松山町内のため池の現地見学
- 5月下旬 秋田県東由利町より会員有志が購入した御衣黄(黄桜)を小学校などへ寄贈、植樹
- 6月5日 鹿島台町内B氏・C氏個人所有のため池(2ヶ所)へシナイモツゴ稚魚と卵の放流
- 6月20日 NPO法人認証申請書受理の通知を受ける。
- 6月26日 「水魚の会」主催バスバスターズ by バスで講演(伊豆沼のバス退治・・・高橋)
- 6月29日 信州大学小西氏(シナイモツゴ研究者)来町。シナイモツゴ生息地、明治潜穴など案内。
- 7月2日 鹿島台町内の人工池へシナイモツゴを約100尾放流
- 8月22日 「なまずの学校」主催シンポジウムで講演(伊豆沼魚類の現状・・・高橋)
- 8月25日 鹿島台町農村環境策定検討委員会・・・石井

昨年 11 月の定例会で、正式な話題となって以来、種々の資料を集めて話し合い、今年 1 月に「NPO 法人化発起人会」を開催しました。2 月にはみやぎ NPO プラザ(仙台市榴ヶ岡)への研修会に 7 名の会員が参加し、NPO 法人の仕組みや認証申請などについて学びました。2 月発行「シナイ通信 4 号」で 1 面に法人化へ向けたアピール文を掲載しました。3 月には定例会を経て、平成 15 年度総会で当会の法人化を提案、満場一致で承認され、同日設立総会が開催されました。

これを受けて法人認証申請の多種多様な書類作成に着手、5 月始め、事前審査を受けるため、NPO プラザに持ち込みました。これからが大変でした。要修正項目がいろいろと・・・山のようにあったのです。いわく「数字は文字と同じ全角で “、” と “、” は統一すること 住所氏名は住民票と一字一句違わないこと(パソコ

ンにない字は手書きで良い・・・佐藤さんの“藤”の字が町の台帳では親と子で表記が異なることもあった)」などなど思いもしなかった本筋とは別のところで、足踏みをしてしまいました。丁寧に修正していただいた係員の方には心から感謝しましたが、なぜここまで必要なのかという思いを捨て切れませんでした。

6 月中旬に事前二次審査書類を提出し、庁内回付されるやに見えたが、藤の字と邊の字がらみで正式受理に到らず、これを修正して 6 月下旬にやっと正式受理となりました・・・「やれやれ本当に疲れました」。

認証まで 3ヶ月をみておかなければならない(なぜそんなにかかるのか不明ですが)ということでしたが、関係各位の尽力で 8 月末には認証可能になり、9 月上旬に最終手続きを経て正式に法人化される予定です。

## みやぎ NPO 夢ファンド 第 2 次 審査会 坂本

平成 16 年 5 月 15 日土曜日の午後、仙台市宮城野区榴ヶ岡にあるみやぎ NPO プラザ交流サロンでみやぎ NPO 夢ファンド第 2 次審査会が行われました。午前中から意気揚々と会場へ乗りこんだ私たち(大浦氏、三浦氏、坂本)は、昼飯もそこそこに終わらせ、新緑が映える榴ヶ岡公園で最終調整を行って、ぎゅぎゅ詰まった内容をなんとか発表時間の 5 分以内にまとめ、いざ出陣！！プレゼンテーションは、発表 5 分、質疑応答 5 分の計 10 分勝負。参加団体は 1 次選考を突破した 11 団体中 10 団体(1 団体は辞退)で、シナイモツゴ郷の会はくじ引きの結果 4 番目の発表となりました。

初めの 3 団体の発表が終わり、いよいよ私たちの番です。前日は眠らずに練習したという大浦氏の発表により「NPO 法人設立シンポジウム:生態系保全とブラックバス対策」のプレゼンテーションが始まりました。大浦氏は少々体調が悪いながらも持ち前の美声と力説により会場を魅了。終わった直後に大きな拍手が沸き上がりました。前の 3 団体が発表・質疑終了後にしか拍手が起らなかったのに比べるといかにすばらしい発表だったかが分かると思います。あまりに熱がこもりすぎて最後の「期待される効果」を説明前に 5 分を超えて終了してしまいましたが、それも質疑の時間に再度説明する機会を与えてもらい、最後まで説明することができました。質疑応答は、公共機関及び他団体との交流やこれまでの活動内容とその成果など、今まで沢山の交流活動を行ってきた我が会にとっては余裕の問いかけばかり。最後には究極目標(!?)である「シナイモツゴを佃煮にして食べる！」という話まで出て、会場は一気に和やかになりました。

そして全団体の発表が終わり、長いなが～い選考時間

の後、いよいよ結果発表です。結果は・・・なんと 2 位！！1 次選考の 5 位から一気に 3 団体をごぼう抜きで、見事夢ファンドの助成金を受けることとなりました。発表直後、その場で万歳をして喜びたかったのですが、選考にもれた団体(予定の 8 団体より少ない 6 団体の採用でした)もあるため、帰りの車の中まで我慢しようと、とりあえず小さくガッツポーズ。でも閉会後に他団体と別れて会場を出たとたん 3 人も我慢しきれなくなり駐車場で「やったー！！」と叫んでしまいました。

今後はこの助成金をもとに盛大な NPO 法人設立シンポジウムを開催するとともに、これで満足せず、次は 100 万円、1000 万円の助成金がもらえるようなさらなる活動を目指してみんなで頑張りましょう！！

### NPO 法人設立記念シンポジウム

#### 「生態系保全とブラックバス対策」

主催 :シナイモツゴ郷の会・鹿島台町  
期 日 :11月20日(土)午後1時～5時  
会 場 :鎌田記念ホール  
参加費 :無料(講演要旨集500円)

(詳細は同封のシンポジウム次第を御覧下さい)

## 捕らぬ狸か逃がした魚か…クイズミリオネア出場未遂顛末記…石井

思い出せば遠い昔の花火のようだが、この冬、薔薇色の夢に熱く燃えたある集団のことを記録に留めたいと思う。

1月7日、郷の会の緊急会議が招集された。議題は みのもんだ司会でフジテレビの人気番組「クイズミリオネア」出場についてである。昨年、全国を賑わせた、サクランボや米などの「盗まれたもの特集」なる企画である。我が会も10月に、鹿島台小学校の池からシナイモツゴ(渡辺会員を中心とした人工繁殖班がふ化と飼育を指導)が大量に盗まれたため、打診があったというわけである。

この会議に先立つ12月6日、会員坂本某は密かに東京へ出張していた。その復命書によると、目的はクイズミリオネアへの最終選考会への参加とあり、シナイモツゴ保護への会員の期待を一身に背負っての上京であった。フジテレビ別館で行われた選考会で坂本は、15分4択50問、30分4択100問の筆記試験をこなし、カメラテストも兼ねた個人面接ではシナイモツゴおよび郷の会の説明はもちろんのこと、自己PRとして新婚2週間目を堂々と謳い(この-!)、最後にカメラに向かって「必ず一千万円を獲得してシナイモツゴを守って見せる!!!」とキメてきたのだ。

その選考の10人の候補の中に郷の会が残っていると連絡を受けての会議である。収録予定は1月12、13日。攻略本を買い込み、傾向と対策の分析はおさおさ怠りない。挑戦者は坂本、応援者はその妻、テレフォン・ブレーション4人には歴史に詳しい小学校校長を筆頭に町内の叡智結集する万全の布陣で撮影に臨むこととなった。しかし、この手の会の会員というものは、よく言えば人材がそろっている、別の言い方をすれば、津軽弁で言うところの「モツケ」(编者注:世話好きの変わり者の意、ちなみに石井氏は青森県出身)の集まりなのである。賞金で池ごと土地を買いシナイモツゴ会館を建設する、鹿島台駅前に大看板を建立する、シナイモツゴキャラクターの入った手ぬぐいを全戸に配布する……。話は大きく屁は臭く(注:津軽の諺)とばかり計画は噴出、会議は紛糾。あとはともかく、出場決定の通知を待つばかりであった。

翌日、公民館に詰めて連絡を待つ面々……。しかし、である。報せは来なかった。局側があまりに幅広く声をかけていたため、今回は見合わせたいとの事である。「今回は」、ってことは次回だな、と尚期待する我々であったが、こういう時は、「この次」ということは大抵ないものである。坂本の手記には、「夢ついでる」とだけ記してある。淡々としたこの言葉の裏にあるものを、我々会員は共有している。平常心に戻った我々のエネルギーはその後、NPO法人設立、そしてこの秋のシンボジュウムへと、怒涛のごとく流れて行くのだった。

## 春の見学会 - 秋田のシナイモツゴ生息地本荘市と大内町を訪れて…鈴木

秋田県でシナイモツゴの研究と保護活動を続けられている本荘高校の木村青史先生(郷の会会員)のご案内で本荘市と近隣のシナイモツゴ生息場などを見学させていただきました。会長以下12名が参加、4月24日早朝6時に出発し、4時間後に秋田県東由利町道の駅へ到着、出迎えの木村先生と科学愛好会の男子生徒3名と合流しました。

愛好会は秋田県内全域のため池を対象にシナイモツゴの生息調査に取り組んでいます。結成2年目ですが、県外等で開かれる学会に積極的に参加し研究者と交流し活動範囲を広げているそうで将来が楽しみでもあります。昨年度は秋田県内の37カ所を調査、その内15カ所でシナイモツゴの生息を確認したそうです。先生たちは生息池の消失などを指摘し、使用されていないため池の保全も重要であることを地域住民に理解してもらおう啓蒙活動も行っています。

現地では 災害復旧事業で改修した芋川の護岸 大内町加多喜沼 大内町シナイモツゴ生息ため池の三カ所を見学しました。芋川では最新の護岸技術に感心し、加多喜沼では初めて見る浮島状の湿原と多くの自生する植物に感激しつつ、是非、また訪れて四季折々の美しい姿を堪能したいと思いました。シナイモツゴ生息池では貴重な水草(ハス類など)や水生昆虫が静かに生きています。池の周りには春の山菜の王様ワラビが沢山自生して舌も楽しませてくれる所でした。

大内町長坂公民館における意見交換会には大内町教育長

や本荘市学芸員など20余名が参加しました。安住会長の「この機会にますます交流を広げていきたい」との挨拶に対し、大内町教育長からは「シナイモツゴ発祥の地の故郷と今後も深い関わり合いを持って行きたい」との返礼がありました。交換会では木村先生、高橋副会長、大浦会員からシナイモツゴを取り巻く現状や保護活動について興味深い話題提供があり、これを受けて参加者の間で活発な議論が交わされました。

これからもシナイモツゴが縁となる交流をもっと広げ保護活動を進めたいと思います。最後に長時間運転して下さった西村さん本当にありがとうございました。



加多喜沼の感動的な風景

## 初の試み、伊豆沼バス・バスターズ

佐藤（豪）

伊豆沼と言えばゼニタナゴ復元プロジェクト会議以来で、その後は関わる事は無いと思っていたほど自分にとっては遠い存在だった・・・が、5月から6月の2ヶ月間、しかも週2回のペースで伊豆沼の水と戯れることになるとは！！

- **人工産卵床組立・設置** - 全部で500個も作成しなければならない。やや焦りながらの作業(自分だけ?)流れ作業なので時々別の工程もやってみると飽きなくて良い。小雨の日もあったが休憩に食べた雑魚の佃煮はおいしかったなあ。

- **人工産卵床観察・捕獲** - 5月初め、まだまだ水温が低く沼からあがる頃には体が冷えていることも。こんな時はゴム製の分厚いウェーダーがあると大助かり。産卵の確認ができない日々が続く。それでも5月5日バスターズでは初めてオオクチバスの捕獲に成功。体長40センチ程でした。一番盛り上がったのは5月16日で10ヶ所以上の産卵が確認でき、親バスを5匹捕獲したが他に3匹網に掛かりかけを獲り逃がしてしまった。なのに、自分には今だにバスの体当たりが無いのはなぜ? 6月あたりから水温が気にならなくなったが産卵も少なくなった。また、産卵の確認と共に三角網でバスの稚魚すくいを始める。稚魚は水面近くをさざ波が立つほどの集団で泳いでおり、網で四方を取り囲む様に掬うと、うまくいけば一度に数百匹は獲れた。

- **振り返って** - 伊豆沼でオオクチバスの駆除をしていて、親バスを捕獲したときも稚魚をたくさん捕まえたときもつい興奮してしまうのだが、その後は「何でこんなにいるんだろう」と虚しくなった。また、駆除している傍らでバス釣りをしている人はどんな気持ちでどんな考えを持って釣っているのだろうと考えてしまった。今回多くの人たちの参加があったが、ブラックバスは日本にはいけない魚であり、放流を無くし繁殖を阻止し駆除が急務であることをもっと世間

に広め伊豆沼に限らず“ブラックバスがいなくなるまでは休日はブラックバス駆除が当たり前”になるくらいの危機感が今の日本人には必要だと感じた・・・残念だが一部のおろかな人間の為に。わかりきっている事だがブラックバスには何の罪も無い。6月も20日を過ぎ、アサザやガガブタが花を開き始めた。どちらも絶滅に瀕している水草達である。だからこそこれらにはとても言えない。「ブラックバスを駆除するためにあなた達を掻き分けて歩いてるんだよ。」とは、あーあ、少しでも品井沼が残っていればなあと思う今日この頃です。



人工産卵床の刺網で捕獲したオオクチバス



可憐なガガブタの花

### 正会員・里親の会（賛助会員）の選択を！

郷の会は9月からNPO法人に移行します。会員変更の手続きを済ませていない方は至急、事務局にどちらの会員になるか決定の上、お知らせください。

### 定例会のお知らせ

会員相互の情報交換などの場です。お気軽においでください。

時：毎月第3土曜日午後6時30分

場所：鹿島台町公民館

### 恒例 池干し・・・ブラックバス駆除

主催：シナイモツゴ郷の会、こども育成会

期日：9月5日（日）

場所：鹿島台町ツボケ沢ため池

地曳網など楽しい企画があります。

### 鹿島台町文化祭 今年も大々的に出展します

開催日：10月30日（土）・31日（日）

会場： 鎌田記念ホール

展示物は10月29日に搬入します。

準備に多くの方の参加をお願いします。

参加可能な方は公民館佐藤まで連絡ください。

シナイはアイヌ語で大きな川（沢）を意味します。小さな流れが大きな川になるように地道な活動を続けていきましょう。

シナイモツゴの生息地を拡大するための取り組みを昨年から実施しています。郷の会は今年の秋にNPO法人(特定非営利活動法人)の認証登録を目指していますが、定款の「目的」や「事業内容」にもシナイモツゴなどの人工繁殖、稚魚放流により生息場を増やす事を掲げています。今年はシナイモツゴの繁殖と放流に特に力を入れており、活動は新聞・テレビなどで報道されるなど周囲からも注目されています。

まず、5月には鹿島台小学校で昨年人工ふ化させた稚魚を町内広長地区のため池に放流しました。6月にはシナイモツゴの産卵床にプラスチック製植木鉢を導入して高い効果をあげました。これは新聞などで「生息域拡大へ新兵器」と大きく報じられました。このようにして産卵させた植木鉢、15個を町内2軒の民家のため池へ放流しております。今後も郷の会ではブラックバスの駆

除などを行いながら、バス退治したため池へシナイモツゴの卵や稚魚を放流して生息域の拡大に努めていきます。



画期的な産卵用ポットの開発に成功

## 100匹のシナイモツゴの旅

5月16日神奈川県相模原市の鹿島台小学校に行ってきた。梅雨入り前なのに小雨の降る一日でした。今回の訪問はシナイモツゴを里子に出すこと？郷の会が取り組んでいる事業の一つで「里親」を募集して希少な生物の保護を図るため、多くの人に理解をしていただき生態系を昔にかえそうということから始めております。

鹿島台小学校に何故シナイモツゴ！！ということですが、私が3年前くらいになりますか、NHKの放送で「ようこそ先輩」という番組を見たことがきっかけでした。

私の暮らす町以外にも鹿島台小学校という名前があることに興味を持ち、同じ名前で交流が図れたらと思いつき、郷の会会員の賛同をいただき、本町の鹿島台小学校で卵から孵化して1年目のシナイモツゴ100尾を本会の高橋副会長と持参いたしました。

100尾のシナイモツゴは鹿島台町から電車で仙台から新幹線に乗り継ぎ新横浜駅まで、そして町田駅で下車、駅から歩いて10分ぐらいのほど近い神奈川県相模原市との堺に位置するところに小学校があり、無事に到着しました。

鹿島台小学校の名前の由来について、位置するところが丘陵台地で鹿島神社にかかわる名称であることを、出迎えていただいた大谷校長先生から伺いま

した。そして地元で子どもたちの自然教育に携わる牧場経営の村田氏にお会いすることができました。

到着したシナイモツゴは本町の子どもたち(5年生)のメッセージとともに日曜日にもかかわらず登校していた、6年生の5人の児童に迎えられ高橋副会長から手渡しました。シナイモツゴが再発見されたこと、どのように育てるのか飼育方法などについて説明をしました。

早速、子どもたちが一人ずつ網ですくい用意されていた水槽に放されると、シナイモツゴは疲れたようすも見せず元気泳ぎ回り、ここで100匹のシナイモツゴの旅は終わりました。

シナイモツゴを通して、本町の子どもたちの思いが相模原市の子どもたちに引き継がれ自然に対する理解が互いに交流の中で深まり、命をはぐくむ心が育ってほしいと希望します。これからも鹿島台小学校の宝として大切にしていだければと思います。

シナイモツゴメールを待っています。

[Eメール:kasi@palette.furukawa.miyagi.jp]

佐藤 孝三

注:神奈川県などフォッサマグナの東側に位置する関東地方には、かつてゼニタナゴなどとともにシナイモツゴが生息していましたが、戦後まもなく絶滅してしまいました。

